



2021年1月18日

白山市
株式会社クスリのアオキホールディングス
イオン株式会社
公益財団法人イオン環境財団

「白山の森」に関する共同宣言について

山田 憲昭(石川県白山市 市長)、青木 桂生(株式会社クスリのアオキホールディングス 取締役会長)、尾山 長久(イオン株式会社 イオン北陸代表)と山本 百合子(公益財団法人イオン環境財団 専務理事)は「白山の森」に関する共同宣言を行います。

白山市は、県内最大の河川である手取川の流域に位置し、日本三名山の白山を有し、1980年に白山ユネスコエコパークとして登録、2011年に白山手取川ジオパークとして認定、2018年に内閣府よりSDGs未来都市に選定されている自然に恵まれた地域です。

4者は、白山の持続可能な地域社会の発展と実現に貢献するため、環境と経済が両立した地域循環共生圏の構築を目指し、人と自然が共生する環境にやさしいまちとして「白山の森」を構築します。白山ユネスコエコパークや白山手取川ジオパーク、また「アオキの森」や「イオンの森」といった新たな森の創出、そしてイオンモール白山等、自然・コミュニティ・福祉・社会インフラを、環境・生活・地域社会の観点から多面的に融合し、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。今後、早稲田大学環境総合研究センターと協働し、学術的知見を活かし産学官民連携のもと新たな里山づくりの実現も進めてまいります。

また、白山市とイオンは「地域連携協定」、「災害時における避難施設等の使用に関する協定」、「災害時等における救援物資の協力に関する協定」を結び地域社会の生活インフラをさらに推進していく予定です。

次代を担う子どもたちに、持続可能な地域といのちあふれる美しい地球を引き継ぐため、これからも4者は連携を強化し、様々な社会貢献活動を積極的に推進してまいります。

＜共同宣言＞

白山市、株式会社クスリのアオキホールディングス、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団は連携・協力し、人と環境にやさしいまちである「白山の森」づくりを推進します。
この取り組みは、人と自然が共生するとともに、健康で活気に満ちた白山市を目指し、持続可能な地域社会の発展と実現に貢献していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

白山市
株式会社クスリのアオキホールディングス
イオン株式会社
公益財団法人イオン環境財団

北村 電話:076-274-9503
人見 電話:076-274-1111
対馬 電話:043-212-6061
西原 電話:043-212-6022

以上

参考

■白山市について

白山市は、石川県内最大の河川である手取川の流域に位置し、日本三名山の白山を有し、山間部は、白山ユネスコエコパークに登録、市全域が白山手取川ジオパークに認定されています。また、海岸部から日本三名山の一つである「白山」の山頂まで、およそ2,700m の標高差があり、総面積が754.93km²(石川県全域の18%)と県内最大の広さを有しています。

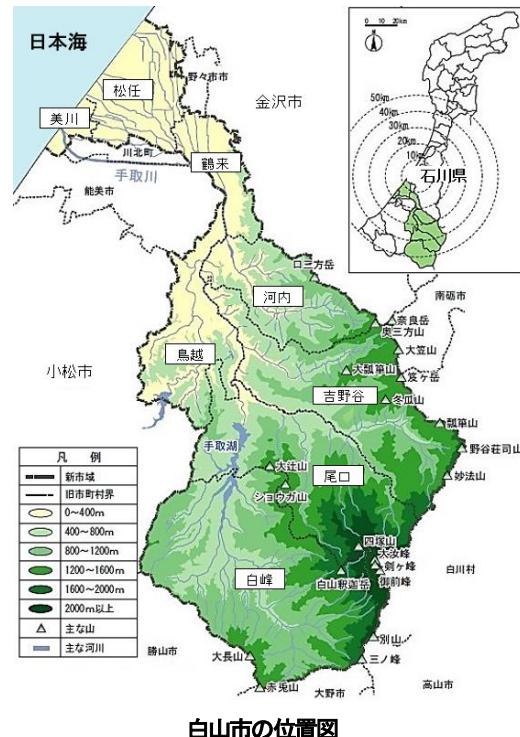
<白山市ホームページ:<https://www.city.hakusan.lg.jp/>>



白山ユネスコエコパーク



白山手取川ジオパーク



■株式会社クスリのアオキホールディングスについて

クスリのアオキホールディングスは、「健康と美と衛生」を通して、社会に貢献し地域のお客さまから信頼されるドラッグストア、調剤薬局を運営することを経営理念に掲げ、変化の激しい環境へ迅速に対応し持続的に成長するために設立されました。クスリのアオキグループは一体となり、多様化するお客様のニーズや、ライフスタイルの変化に対応し、お客様にとって「近くで便利なお店」を目指しています。

<株式会社クスリのアオキホールディングスホームページ
<https://www.kusuri-aoki-hd.co.jp/>>



アオキの森

■公益財団法人イオン環境財団について

1990年「お客様を原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立され、本年で31年を迎えました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており現在は「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4事業を中心にステークホルダーの皆さまとともに環境活動を進めています。

<公益財団法人イオン環境財団ホームページ: <http://www.aeon.info/ef/>>

■イオンの森づくり

イオンは、各国政府や地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでの30年間世界11カ国で植樹を行い、「イオンふるさとの森づくり」・「イオン東北復興ふるさとの森づくり」と合わせイオングループ累計植樹本数は1,213万本を超えていました。(2021年1月現在)

■イオンの里山づくり

時代に即した環境課題の解決を目指すため、2020年9月に早稲田大学環境総合研究センター内に「AEON TOWAリサーチセンター」を設立しました。本研究所は、これまでの経験や知見、学術研究を統合し、持続可能な社会の実現を目指していくものです。森づくり、地域づくり、人づくりに取り組み「地球環境の持続性」「人と生活の持続性」「地域社会の持続性」という観点から新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

<AEON TOWA リサーチセンターホームページ:
<http://www.aeontowa.jp/>>



＜石川県におけるイオンの森づくり＞

1993年から2020年までの植樹累計本数 232,824本

加賀海岸植樹（2004年～2006年）

「加賀海岸自然休養林」や常緑広葉樹自然林の「鹿島の森」を有し、国定公園に指定された加賀海岸は、松くい虫による被害が拡大したため、加賀市では1999年より市内の小学生が、12種類のふるさとの木の採種を行い、約10万本を育てました。失われた緑を回復し土地本来の森づくりを推進する本プロジェクトに賛同し「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり植樹祭」を実施しました。加賀海岸自然休養林内に、約3,600名のボランティアの皆さまと、3万本を植樹しました。



2004年 加賀海岸植樹

かほく市植樹（2008年）

市民が憩う桜の名所とするために石川県かほく市「河北潟の公園」と「宇ノ気川両岸堤防」に、170本のサクラを、270名の地域のボランティアの皆さまと植樹しました。

■イオン ふるさとの森づくり

イオンの店舗が地域名コミュニティの場となり、そして緑を育む心が地域の人々にも広がっていくことを願い、新たに開業する店舗の敷地内に、お客さまとともに植樹しています。これまでに石川県内では「イオンモール新小松」「イオンタウン野々市」、「イオンモールかほく」、「金沢フォーラス」等、累計約20万本を植樹しました。2021年夏に開業予定の「イオンモール白山」においてもふるさとの森づくりを行う予定です。



イオン ふるさとの森づくり